

# 東京新聞 暮らすめいと



東京新聞読者の生活情報紙

## お元気ですか



心臓パートⅣ

南淵 明宏 44

一錠千七百円するクスリと十円のクスリ、どちらが効くでしょうか? 「そりゃ千七百円のほうでしょう」

誰もがそう思うでしょう。重い心臓病の患者さんでは心臓の負担を軽減するため、尿をたくさん出して全身をわざと脱水にする治療法が取られます。値段を比較したのは両方ともそんな時に使われる利尿薬というクスリです。

もともと効果のないクスリを患者にはだまって服用してもらい、その効果を調べると、やはり高価なクスリほど「効いた!」と思う人が多いとか(プラセボ効果)。

## 10円の薬ばかり処方

### 質素節約は国是

「高価なものがいいに決まってる!」  
これは人間のさかなのでしよう。「判断」「選択」から逃げ出したい気持ちがある「値段が高いからこっちはしよう」とよく考えずに決め込んでしまうのです。

つまり高い商品に飛びつくのは思考停止です。

一方で、「もったいない」は世界に誇る日本文化の精神を表した言葉です。

医師はクスリを成分で判断して処方します。使い慣れている、ということも重要

要です。冒頭の利尿薬では、私は十円のクスリばかり処方しています。新しい高価なクスリの価格には宣伝費用や効能をうたうインチキ論文作成のための医者への賄賂が含まれている、と私は疑っているからです。

先日聞いた福祉関係のお

役人様のお話では「年金はあと十年で破綻です」。

もうみんな気がついていくことですね。小売業界の話では「消費の鉄板」と言われた中高年の下着も売れ行き減少とか。

「下流老人―億総老後崩壊の衝撃」という本も出版されています。

質素節約。国是です。



プロフィール なぶち・あきひろ

奈良県立医科大学卒業。シドニーセント・ビンセント病院、国立シソガポール大学病院などを経て、2010年12月から品川区の大崎病院東京ハートセンターのセンター長。医学博士。